

# 一般国道180号(岡山環状道路)岡山西バイパス(西長瀬～榎津)に係る新規事業採択時評価

- ・アクセスコントロールされた4車線化整備により、主要渋滞箇所が解消し、信頼性の高いネットワークを構築
- ・交通混雑解消にともなう、交通事故の減少により、安全性が向上
- ・第二次救急医療施設への速達性が向上し、救急医療活動を支援

## 1. 事業概要

- ・起終点: 岡山県岡山市北区西長瀬～岡山県岡山市北区榎津
- ・延長等: 3.5km (第4種第1級、4車線、設計速度60km/h)
- ・全体事業費: 約330億円
- ・計画交通量: 約34,300台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約24,200台/日	約4,500台/日	約5,600台/日

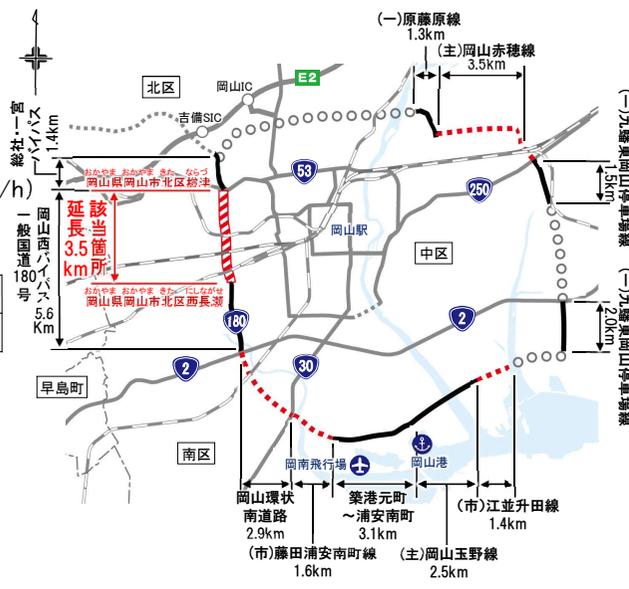


図1 事業位置図

## 2. 課題

### 課題①交通混雑による旅行速度の低下

- ・岡山県西部から岡山都心部へのアクセスには国道180号岡山西バイパスを經由(図2)
- ・当該区間は平面2車線であるが1日2万台を超える交通量(交差道路も2万台を超える交通量)があるため、主要渋滞箇所が2箇所存在するなど、慢性的に交通混雑が発生。(写真①、図2)



写真① 野殿西町交差点付近

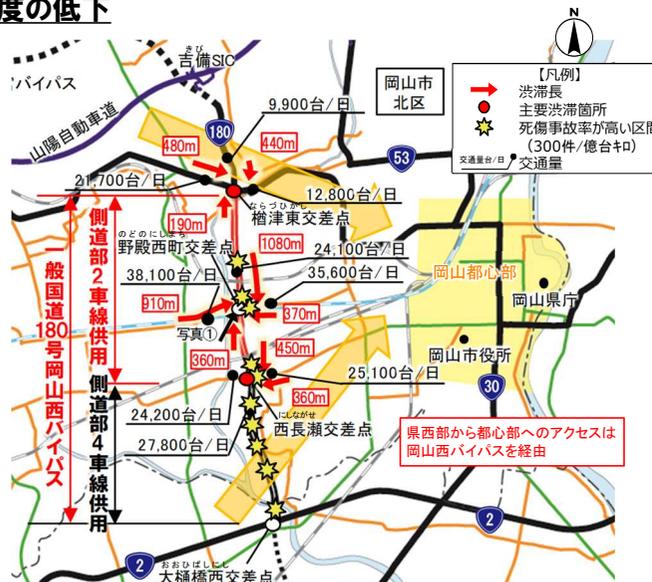


図2 国道180号岡山西バイパスの交通流動、主要渋滞箇所、渋滞長  
出典: R1.11交通実態調査

### 課題②著しい交通混雑により安全性が低下

- ・当該区間の死傷事故率は全国平均の約2.4倍の153件/億台キロと高い状況。(図3)
- ・事故類型では著しい交通混雑に起因する、追突事故の割合が約4分の3を占め、安全性に課題。(図4)

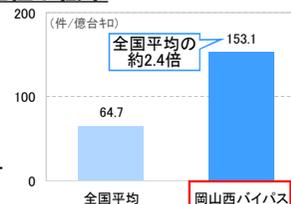


図3 岡山西バイパスの死傷事故率  
出典: [全国平均]交通統計 平成29年版 [事業区間]H26-H29 ITARDAデータ

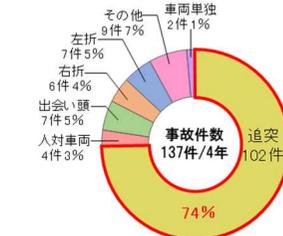


図4 岡山西バイパス 当該区間の事故類型  
出典: [事業区間]H26-H29 ITARDAデータ

### 課題③救急搬送活動の阻害

- ・岡山西消防署管内における緊急搬送の約6割を、岡山市立市民病院(第二次救急医療施設)と岡山済生会総合病院(第二次救急医療施設)で担っているが、主要な搬送ルートである岡山西バイパスの交通混雑の影響を受ける等、救急搬送に支障。(図5・図6、写真②)



図5 西消防署管内の救急搬送状況  
出典: 岡山市消防局提供



写真② 西長瀬交差点付近

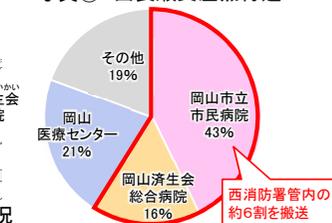


図6 西消防署管内における病院別搬送件数 (N=3,168件)  
出典: 岡山市消防局提供(平成30年)

## 3. 整備効果

### 効果1 幹線道路の交通混雑解消[◎]

- ・当該区間の4車線整備(立体化)により、主要渋滞箇所は2箇所を回避。
- 渋滞損失時間 【現況】106万人時間/年 → 【整備後】10万人時間/年
- 旅行速度 【現状】16km/h → 【整備後】60km/h

※【現況】H27全国道路・街路交通情勢調査(側道) 【整備後】R12将来交通量推計結果に基づき算出(岡山西バイパス本線)

### 効果2 幹線道路の交通安全性の向上[◎]

- ・当該区間の交通混雑の解消で、交通混雑に起因する追突事故が減少。事故危険箇所1箇所を回避。
- 当該区間の死傷事故件数【現況】34件/年 → 【整備後】23件/年
- 当該区間の死傷事故率【現状】153.1件/億台キロ → 【整備後】50.6件/億台キロ

※【現況】H26-H29ITARDAデータ(側道) 【整備後】R12将来交通量推計結果を用いて人身事故算定式により算出(側道+岡山西バイパス本線)

### 効果3 救急医療活動の円滑化[◎]

- ・当該区間の交通混雑が解消することにより、第二次救急医療施設への搬送時間が短縮し、救急医療活動の円滑化に寄与。
- 吉備中央町から市立市民病院への搬送時間の短縮【現況】51分 → 【整備後】43分

※H27全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度より【現況】側道利用ルート 【整備後】岡山西バイパス本線利用ルート(対象区間は設計速度60km/hで算出)

### ■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

B/C	EIRR※1	総費用	総便益
4.7	16.7%	244億円※2	1,148億円※2

※1: EIRR: 経済的内部収益率 ※2: 基準年(R1年)における現在価値を記載 (現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

